

# 2022年度事業報告

(2022年4月1日～2023年3月31日)

特定非営利活動法人フードバンクふなばし

## 1. フードバンク事業報告

未だ食べられるのに様々な理由で廃棄される食品を個人や企業から寄付してもらい、必要とする子育て支援団体や子ども食堂等は無償で提供する活動である。循環型社会への取り組みであり、缶詰1個から参加できる社会貢献活動である。

### (1) 食品を集める活動

長引く新型コロナウイルスの流行の後、食品や生活必需品、光熱費などの値上がりの影響で、食品が集まりにくくなり一時は在庫不足の懸念もあったが、年間約540件の寄付があり食品不足を免れることができた。

#### 食品寄付量推移

(単位：Kg)

	個人	企業、団体	きゃろくんボックス	合計	購入
2022年度	5,387	27,407	6,108	38,902	1,949
2021年度	4,320	20,998	5,934	31,252	-
2020年度	2,354	11,928	3,211	17,493	-
2019年度	711	3,043	1,786	5,540	-
2018年度	716	3,343	805	4,864	-

#### ①きゃろくんボックス（常設型寄付ボックス）を通じて

きゃろくんボックスは船橋市および近隣市のスーパー等に常設されている食品寄付ボックスである。いつでも誰でも缶詰1個から寄付することができる。スーパー等のフードドライブは全国的に普及しており、コロナ禍でも寄付が減少することはなかった。ボランティアスタッフ4名により定期的な食品回収が行われた。

##### 【きゃろくんボックス設置店舗】

コープみらい薬円台店	マルエツ三山店	せんどば
コープみらい八千代店	マルエツ下総中山店	D's Fact
コープみらい鎌ヶ谷店	マルエツ金杉店	ファミリーマート飯山満2丁目店

#### ②個人

火曜日、木曜日の活動日に合わせて、年間約330件の寄付が持ち込みや郵送で寄せられた。食品を購入して定期的に寄付する人も少なくない。コロナの影響もあり、自治体からの支援のお粥や缶詰が多かったのが特徴であった。

#### ③企業、団体

年間約210件の寄付が企業や団体から寄せられた。余剰の食品や災害用備蓄食品が主であるが、企業や団体内でフードドライブを自主開催して集まった食品を寄付して下さるケースも多かった。今後もフードドライブに取り組む企業、団体が増えるが見込まれる。

【フードドライブを共同で開催した団体】

船橋市	5月、10月、2月
パルシステム千葉	5月、2月
生活クラブ生協	10月、2月
千葉ジェッツふなばし	5月、12月
JR東日本千葉支社BSL	5月、1月

【フードドライブ開催し食品の寄付があった団体】

習志野台団地自治会、明治安田生命船橋本町営業部、コープデリ八千代センター、船橋市社会福祉協議会  
 コープデリ湾岸センター、プレーパーク船橋、ひがふなフェスタ、コープみらい千葉県本部  
 浦安市社会福祉協議会、富国生命、みさきの会、Y'sプロジェクト、美し学園自治会すみれクラブ  
 みずほ銀行船橋法人部、カーブスPATIO本八幡、コープみらい総代会、タキガワコーポレーション  
 あいおいニッセイ同和損保、大東建託、かんぽ生命保険船橋支店、コープみらいぎやっせ物産展

④食品の購入

食品の購入が可能な助成金のほか、食品購入を用途とした寄付金もあり2,000キロ近い食品を購入することができた。7、8月にはそうめんやめんつゆ、12、1月にはクリスマス菓子やシャンメリー、そば、餅、海苔など季節に合った食品を支援に加えることができた。さらに常温保存が可能な豆腐やインスタントコーヒーなどのし好み、料理用途の広いツナ缶などを購入できた。

(2) 地域の団体への食品提供連携

様々なかたちで寄付を受けた食品は、地域の子育て支援団体や子ども食堂等に提供し活用されている。集められた食品を必要とする人に届け、食の循環を作り出す事がフードバンクの役割である。

支援実績推移

	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
支援件数(回)	41	74	174	269	298
支援重量(kg)	1,110	1,742	8,151	10,099	15,931

①子ども食堂等の子育て支援団体への食品提供

主な提供先団体は子ども食堂である。船橋市の他、習志野市、白井市、市原市など20か所を超える子ども食堂に米や食材、お菓子の提供した。食品配布を実施している子ども食堂には配布が可能な缶詰類を提供し、その活動を支えた。

さらに市内の母子自立支援施設「青い鳥ホーム」に加え、2022年度より市川市の「国府台母子ホーム」、船橋市内の自立援助ホーム「実家」(※)への定期的な食品提供を開始した。

※自立援助ホームとは、何らかの理由で家庭や施設にいらなくなり、働かざるを得なくなった原則として15歳から20歳まで(状況によって22歳まで)の子どもたちに暮らしの場を与える施設。

## ②高校生への食品支援

船橋市が実施している生活困窮家庭の高校生の学習支援会にお菓子をはじめとする軽食を提供した。また昨年度に続きNPO法人ハイティーンズサポートちばと連携して県立の定時制高校内で実施する食品配布への協力した。さらに県立高校のスクールソーシャルワーカーからの依頼で自立援助ホームに入所している生徒やひとり親家庭等困難な生活状況下にある生徒に継続的な支援を実施した。

### 【支援をした高校】

県立大宮高校 5月26日、6月30日、10月20日、2月7日  
県立生浜高校 7月19日、9月20日、11月25日、12月20日、1月18日、3月17日  
県立薬円台高校 11月24日  
その他二和高校、古和釜高校

## 2. 食のセーフティネット事業報告

長引く新型コロナウイルスの流行の後、食品や生活必需品、光熱費などの値上がり、子育て家庭（特にひとり親家庭）に更なる困難をもたらしている。

食のセーフティネット事業は、配送による個人支援、パントリーピックアップ（対面による食品の支援会）の二本立てで実施した。

### 支援の推移

		2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
個人支援	回数	108	265	507	779	721
	重量 (kg)	1,650	3,388	7,809	13,609	12,502
パントリー	回数	—	—	71	379	714
	重量 (kg)	—	—	886	4,626	8,414

### （1）配送による個人支援

子育て家庭に向けた支援の食品を毎週火曜日、木曜日に発送した。支援対象は、船橋市児童家庭課ひとり親支援係、家庭児童相談室、保健と福祉の総合相談窓口さーくる、保健所保健師、スクールソーシャルワーカーと連携し決定している。1回の食品の重量は、1家庭あたり15から20キロであり、家族構成や子どもの年齢に合わせて食品を選び、スタッフからもメッセージを添えて、箱詰めするという配慮をしている。育ち盛りの子どものいる家庭への支援は箱の重量が25キロを超えることもある。食の支援を必要とする家庭は様々な課題を抱えており、関係機関と連携しての支援活動が重要である。

### （2）パントリーピックアップによる個人支援

毎月、フードバンクふなばしの金杉事務所と船橋市福祉会館内の母子・父子センターを会場として、ひとり親を対象として食品支援会を実施した。2会場ともに定員を増やし続けて対応をした。他市からの利用者も含め毎月70名を超える利用がある。

習志野会場では、地域のボランティア1名と薬円台地区社会福祉協議会のスタッフが、食品の搬入や利用者への対応に協力をいただいている。地域の人々にひとり親家庭への食品支援の理解が広がり支えあいが形になった。

私たちにとっても、パントリーピックアップは利用者と直接話をする事ができる貴重な機会であり、活動するスタッフは利用者とのコミュニケーションを大切にしている。また昨年に引き続き児童家庭課母子父子自立支援員が相談を実施した。

### 3. その他の事業

#### (1) 船橋市との連携協定の締結（かなすぎレター6・7合併号参照）

2022年度8月より準備を進めた連携協定を12月13日に締結した。連携協定は両者がフードバンク事業を通じて経済的に困難な状況にある家庭が安心して暮らすことができる社会の実現を目指すことを目的としている。

#### (2) 食品ロス削減に向けたリーフレット配布

昨年度に続き、10月の食品ロス月間に、船橋市と船橋市教育委員会の後援を受けてリーフレット「食品ロスってなに？」を作成し、約54,000枚を市内の小学校児童、中学校生徒、教職員に配布した。

#### (3) 食品提供団体との合意書の取り交わし

農林水産省が作成しているフードバンク活動における食品の取扱い等に関する手引きのなかでは、フードバンク活動団体と食品の受け取り先との間におけるルールづくりを推奨している。当団体も食品提供先である子ども食堂等と合意書の取り交わしを進めた。

#### (4) 外部活動

千葉経済大学短期大学部にて、寄付講座にてフードバンク活動について講演  
生活困窮者支援官民連携プラットフォーム会議への参加  
令和4年度地域連絡調整会議にてフードバンク活動報告  
令和4年度教育相談部会船橋地区研修会に参加  
ふなばし子ども食堂ネットワークミーティングへの参加  
定時制高校生支援プロジェクトへの参加  
県内生協と県内フードバンク合同フードドライブ実行委員会へ参加  
NPO法人ハイティーンズサポート千葉との協働（定時制高校）

### 4. 運営について

#### (1) 活動スタッフ

常勤スタッフ	2名
発送作業スタッフ	7名
仕分け・棚卸し作業スタッフ	3名
食品回収スタッフ	4名
広報活動スタッフ	2名
事務および会計スタッフ	1名
パントリーピックアップスタッフ	3名

#### (2) 食品の管理

食品の安全確認として「食品を受け入れ時」と「食品発送時」に包装の破損が無いかや賞味期限をチェックし安全で安心な食品を提供できるよう取り組んだ。また、こまめに棚卸し作業を実施して賞味期限の近いものから支援に活用して期限切れによる廃棄を最小限に抑えるように努めた。

### (3) 個人情報取り扱い

個人情報の取扱いについて、十分な配慮の下で活動するよう、スタッフには個人情報取り扱いの覚書への署名をお願いするとともに、個人支援カルテ等は鍵付きのロッカーにて保管をした。

### (4) 会員

#### ①正会員（2023年3月31日現在）

29名

#### ②賛助会員（2023年3月31日現在）

個人 44人 団体 32団体

### (5) 事業資金

市民および民間企業からの寄付、助成金をベースにして事業を運営した。その中でも農林水産省からの助成金が大きな割合を占めた。

配送料については船橋市が新設したフードバンク活動団体助成金（2/3助成）を財源とした。

賃借料、回収にかかるガソリン代、食品受入に関わる人件費は農林水産省からの助成金を財源とした。

### (6) 保険について

NPO活動総合保険（あいおいニッセイ同和損害保険）に加入済。対象者は「組合の構成員全員」

賠償責任保険（身体財物、管理財物、人格権侵害）、

事故対応費用、

見舞い費用、

障害保険（死亡、後遺障害、入院、手術、通院）